

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 山之内 道子

1 教育委員会

教育基本法や学校教育法、さらに、いばらき教育プランや第二次守谷市総合計画を基に「守谷市の教育目標」及び「守谷市学校教育プラン」を作成し、現場へと足を運び議論を重ねて、より良き方向を探る姿勢で邁進されました。

保幼小中高連携を推し進め、長年の取組で基礎を築かれました。その上に新しく守谷市学校教育グランドデザイン「世界で輝く人づくり」をテーマに保幼小中高連携から一貫への教育全体構想ができ、「将来の夢に向かって努力できる児童生徒の育成」へ向け、一段と踏み込んだプロジェクトが動き始めました。実行力のある守谷市教育委員会に期待します。

2 学校教育・指導室事業

(1) 教育環境の整備・充実

情報教育推進のため、ICT機器（タブレット）41台配備予算が計上された。

けやき台中学校にエレベーター棟増築及びバリアフリー化の取組が行われた。さらに、各小中学校のトイレ洋式化工事も順調に設計業務が行われ、平成26年度順次実施の見込みが付いた。快適な学校環境が整えられつつある。

(2) 学校教育プラン

●ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせるため、早くから学習支援ティーチャー・社会人TTの積極的な活用が図られ、その成果として「茨城県学力診断のためのテスト」で小3より中3まで全てで県平均を上回っている。特に、授業中離席の児童がほとんど見られなくなったのは、誠にすばらしい。落ち着いて学べる環境確保のために今後も続けていただきたい。

文部科学省の委託事業「インクルーシブ教育システム構築事業」は、大変重要な目的を持っている。成功に向けて運営協議会など、更なる協力体制を固め邁進していただきたい。

●ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立を掲げ、具体的な方策がとられ、生活リズムの向上など効果が現れてきている。道徳授業でも模索が続いているが、規範意識の高揚と合わせ家庭や地域との連携がますます必要と考えます。

ゼロトレランスについても、多方面から問題点を見つけるため、きめ細かな対応がとられている。

教育相談体制も多岐にわたり整い、利用数も増え、児童との信頼関係ができていることは評価できる。

●ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

体力の向上ではさまざまな取組がなされ、良好なる結果となっている。

栄養教諭の食育指導などは、さらに広く行われると一層の意識付けになり、関心の低い家庭への喚起となり、運動と食事両面からの基礎体力づくりが期待できる。

●ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

国際理解教育の一環として平成13年度からALTが配置され、今年は「English in Action」を設定するなど、毎年着実に一步一步進んでいる様子が見てとれる。また、「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」が作成され、楽しく話す英語力が付くことであろうと、今後の活用に注目したい。

●パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

地域社会への授業公開と積極的な情報発信・地域社会人ボランティア有効活用・サポートチームのパトロール活動やあいさつ、声かけ運動などさまざまな事が計画実施され、生徒児童を見守り育てる姿勢が市全体に醸成されつつあるのを感じる。一貫教育元年は学力向上の取組が中心であった。次年度は、「豊かな心の育成」を重点課題とする計画であるが、守谷市の教育委員会関係各位の知恵が発揮されることを期待します。

3 給食センター事業

食事の正しいあり方の取得、好ましい人間関係の育成、栄養管理と健康増進などの目標に向けて、栄養教諭の学校に出向いての指導、保護者の給食センター見学・試食会などさまざまな取組がなされています。

生徒・児童が安心・安全な給食をおいしく・たのしく・和していただく。笑顔がこぼれる給食タイム目指して、規律ある調理が行われていると思われる。

給食費未納問題も年を追うごとに改善されている。施設設備の老朽化問題について改修工事設計など行われているが、児童生徒の増加も予想され、ますますの長期的視野に立った検討が待たれる。

4 生涯学習・社会教育事業

（1）豊かな生活をめざした学習機会の提供・充実と人材バンクの活用

自然観察会の開催、各公民館の計73にも上る講座・教室の提供など活発な動きがみられます。既存のサークルと合わせると、多くの市民が公民館活動を楽しんでいると思われる。地域によっては高齢化もみられると思うが、年齢・男女比など傾向を分析する時期に来ているのではないかと考える。より多くの年齢層が参加・利用しやすいように検討願いたい。

（2）学校、家庭、地域社会の連携による教育の推進

学校体育施設開放事業や富士登山、自然体験教室など毎年順調に行われている。子ども会活動に対する保護者の協力や家庭教育講座などの参加者が少なくなっている背景には母親の就労率が上がってきていることや考え方の変化があると思われる。ただ、子を思う気持ちはいつの時代でも同じと思われるので、こどもの成長に合わせて

大人も学び続ける姿勢が必要不可欠であることを訴えることが大切であると思います。

他、芸術祭、コンサート、伝統文化子ども教室、公民館まつりなど多様な芸術・文化活動が活発に行われていることはすばらしい。また、スポーツ・レクリエーションなどについても様々なことが、楽しく力強く継続して行われている。

放課後子どもプラン事業は、民間委託になり、諸問題が順次改善されてきている。利用者が増えるにつれ、この分野は重要な意味をもつことになるので、慎重に大胆に議論を重ねていただきたい。

5 図書館事業

長年市民参加の図書館協議会が開催され、公共図書館として目標を持ち、達成すべく取組が行われている。読み聞かせの新たな市民ボランティア育成などは、特に大切なことであると思います。ブックスタート事業は子育て経験の豊富なボランティアの方の子どもさんへの対応など、新米ママさんには参考になることがたくさんあることと考えます。

図書館ネットワークの活用が多くなるにつけ、準備や配送に追われる様子が目に浮かびます。今後は、ますます増えると思われます。再検討で良い知恵が絞れますよう願っています。

〈 総括 〉

教育委員会全体の評価について

パソコン・タブレット・スマートフォン・放課後こども教室利用者の増加など挙げれば切りがな無いほど激変する社会情勢に時にあたふたとしながらも、毎年目標を掲げ、取組概要を示し、着実な実行をし、基礎を磐石なものとし、その上に手堅く次の課題を共有し、現場主義で声を聞きながら進めていく。そして、ついに平成25年度保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」がスタートしました。内容も一貫外国語指導計画や一貫情報指導計画などきめ細かく作成されているので、学校現場も実行に移しやすい、安心して教育にあたれる環境が整ったと評価します。守谷市は、住みやすい都市プラス教育に熱心な都市として尊敬されることでしょう。